

## きゅうりこれからの管理

ハウス内の温度管理は外気温に合わせていく時期になってきます。ハウスの開口部分をできる限り開け、ハウス内が高温状態にならないように管理していきましょう。

また、今年はアザミウマの発生数が多いとの発生予察が出ています。

### 【温度・湿度・灌水管理について】

ハウスを開ける時間が長くなるにつれ、ハウス内は乾燥してきます。また、日長も長くなりますので蒸散量が増え葉の消耗も激しくなります。灌水量が不足すると果形の乱れや草勢の低下につながります、十分な灌水と草勢維持を行って下さい。

先細果の発生は水分不足や高温管理になると発生しやすくなります。日中の温度はできる限り下げ、夕方は早くハウスを閉めないようにしましょう。

加温機はまず稼動しなくなりますので、曇雨天時での多湿条件を避けるために、循環扇及び加温機送風、換気扇の活用を行なって下さい。

全面マルチの方でハウス内が乾燥するため、通路のマルチを取ろうとされますが、できればマルチはそのままにしておきましょう。マルチを取った後に通路の根がなくなり病気が多発する可能性があります。

### 【整枝・誘引作業について】

つる下ろし栽培では遮光を行いながら、つる下ろし作業が遅れないように管理しましょう。力枝の伸びが良すぎる場合には遮光を控える事も必要ですが、ハウス内が高温になるようであれば陽射の強い時間帯での遮光も考えましょう。

摘芯栽培につきましては、側枝の動きが良い場合には摘芯及び、摘葉作業を積極的に行なうようにして下さい。逆に、動きが悪い場合には摘芯作業は控え、摘葉作業を中心に管理しましょう。できる限り上段部分が過繁茂状態にならないように心掛けましょう。

成り疲れによる草勢低下時には、極端な摘芯・摘葉作業は控えましょう。

### 【肥料管理について】

灌水量が増加する分、追肥の量も増やしていく必要があります。ただし、葉色が濃い場合は追肥は控える必要があります。葉色を見ながら、追肥の量を調整していきましょう。

圃場によっては、水がたまりやすい場所で葉が黄色くなるころがでてきます。通路に部分的な追肥を行なう方法や、灌水チューブを絞る、または灌注を行なう等の対策を講じ、葉色の改善を行って下さい。

草勢の低下が著しく出てくる時期にもなります。灌水での追肥だけではなく、葉面散布による追肥も行なっていきましょう。

### 【病虫害防除について】

例年では5月下旬から梅雨に入ってきます。成り込み等での草勢低下による、ベト・褐斑病の発生が考えられます、葉の濡れを押える為に循環扇・換気扇・送風を活用し、しっかりと予防防除を行なっておきましょう。また、ハウス外からの害虫飛来やハウス内での害虫増殖スピードが速くなる事により害虫密度が増加してきます、粘着板の設置や微生物農薬等の混用散布による増加抑制対策を講じましょう。

農薬防除以外でのハウス内外の除草の徹底を行って下さい。収穫や肥培管理等で手が回らなくなりがちになってきますが、しっかりと除草対策を行う事により害虫の増殖源を少しでも抑えていきましょう。

きゅうり黄化えそ病の多発防止の為、しっかりと管理を行って下さい。

薬剤ローテーション等で分からない点がありましたら、担当者まで御相談下さい。

※きゅうり作付終了後は必ずハウスの蒸し込みを行い、ハウス内の害虫はハウス内で駆除した後に片付けを行って下さい。

## 果樹園の管理(5月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。5月の果樹園の管理は以下の通りです。

### 1.かんきつ類全般

#### 1)剪定、縮間伐

収穫の終了した園地では、早めに剪定を終わらせましょう。また、密植園では、樹幹上部しか光が当たらず、すそ枝がハゲ上がり、内部の葉が無く、枝が立ち貧弱な樹となります。さらに、果実肥大や品質が劣り、結果層が上部に集中するため、収量が低下し、防除や収穫の作業能率も低下しますので縮間伐が重要となります。

剪定の方法は立枝を間引き、樹幹内部まで光が当たるようにします。今年は表年ですので強めの剪定とします。

#### 2)葉面散布の実施

発芽から緑化までの期間中は、葉面散布を実施して下さい。

…粟粒期から白化期はじょうのう数が決まる重要な時期です。そのため、多くの窒素分を必要としますので、白化期までに最低2回の葉面散布を実施しましょう。

目安→パワフルグリーン2号800倍又は尿素500倍（1週間間隔）

…葉面マグ200倍やスイカル300倍を散布して、春芽の緑化、硬化を早めましょう。

### 2.日向夏の管理

#### 1)人口受粉

日向夏は自家不和合性ですので、必ず人工受粉を実施してください。

—方法—

1、受粉に使用する花を採取します。（開花直前の花のみ）

2、葯を採取後、乾燥通風状態で20～30時間かけて乾燥させます。

※開葯温度は25℃～30℃程度を保って下さい。

※直接葯に風が当たらないよう新聞紙等で包んで開葯させます。

※乾燥の目安は指に黄色い花粉が付く程度です。

3、精製した花粉は2～4倍程度に希釈して受粉に使用します。

※少核栽培の場合は花粉1：石松子2～3で希釈してください。

4、保存する場合は、パラフィン紙等で少量ずつ包み、乾燥剤を入れたタッパーに入れ、冷凍庫で保存してください。

#### 2)夏肥の施用

5月中旬に夏肥を施用してください。日向夏特号…80kg/10a（かんきつ肥料でも代替可能です）

#### 3)病虫害防除

月	旬	対象病虫害	使用薬剤	希釈倍数	使用方法
5	上	訪花害虫 灰色カビ病	モスピランSL（液）	2000	混用
			ストロビードライ（FL）	2000	
5	中	灰色カビ病 チャノホコリ スリップス	オーシャイン（水）	2000	混用
			コテツ（FL）	4000	

※ヨモギエダシヤク発生園はコテツフロアブルを2,000倍で散布します。

※訪花害虫の防除は一斉防除となります。

### 3. スイートスプリングの管理

#### 1) 病害虫防除

スイートスプリングは毎年、かいよう病等の被害が出ています。そのため、予防散布は必ず実施して、発病を抑えましょう。また、かいよう病の被害枝は剪定時に必ず除去して下さい。

病害虫名	使用薬剤	希釈倍数	希釈倍数
かいよう病	Zボルドー	500倍	混用散布
	バイカルティ(水)	1000倍	

### 4. ハウスぶどうの管理

#### 1) 新梢の誘引、摘心

長梢剪定の場合、先端部だけに強い芽が発生しやすいので、発生した場合は早めに芽かきを行い、生育を揃えます。また、新梢の伸びに合わせて棚面に誘引し、通風、採光を良くします。強い芽が発生した場合は先端を軽く摘心し、生育を揃えるようにして下さい。

#### 2) 摘房

摘房の時期は、早いほど着色向上などの効果が大きくなります。そのため、開花前の副穂の除去と同時に目標房数の1.5倍位に整理して下さい。実止まりが確定したら早目に目標房数として下さい。

##### 標準着房数

10a当収量目標(t)	10a総房数	1房重量(g)
1.2	3500	350

#### 3) 花穂の整形及び時期

開花直前～全花蕾開花時に花穂の整形を行って下さい。方法は、副穂を除去し、上部と下部の花穂を除去して、13～15段(8～10cm)に整形します。

※農薬の使用については、使用基準(摘要作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等)を守って使用して下さい。少しでも不明な点がありましたら担当者にご相談下さい。

連絡先……果樹農産課 電話 77-2216

## 露地野菜生産者のみなさまへ

天気が不安定なため、春作の管理等が大変なことと思います。収穫前に、除草の遅れや排水不良による腐敗等の発生が多く見られますので、排水溝を作るなどの排水対策を必ず行って下さい。

### 《栽培管理について》

#### ・里芋・

気温が上がり、晴天が続くとアブラムシやヨトウムシの発生が見られます。新芽に被害があると生育不良となりますので、被害がある前に予防策を徹底するようにして下さい。

里芋は干ばつに非常に弱いので降雨が無い場合はかん水を行ってください。降雨により圃場に水が溜まると根傷みし水晶芋の原因となりますので、排水溝の整備を必ず行うようにして下さい。

#### ・ジャガイモ・

湿害に非常に弱い為、排水溝の整備を行ってください。開花後30日程度で収穫となります。疫病予防と、アブラムシの発生が予想されますので、木酢液の散布等を行ってください。収穫は出荷規格に基づき出荷を行って下さい。

収穫遅れは二次生長の原因となります。品質の良い状態で出荷して下さい。

・春人参・

収穫前の降雨による腐敗等が毎年多いので排水溝の確保・整備等を行ってください。間引き不足で病害発生や品質低下になります。最終間引きで最低8cmはあけてください。契約栽培では小規格(80g以下)の受入はしません。

・白ネギ・

1型の苗を定植したばかりだと思います。品種により、栽培管理方法が異なりますので、御注意ください。定植後は、降雨による被害が多い為、排水溝の整備等を必ず行うようにして下さい。定植前には必ず基肥を施用してください。

定植後の管理は、スリップスやヨトウムシなどが発生しますので、予防策を徹底してください。

・甘藷・

出荷予定は6月下旬からとなっています。全員で出荷を始められるように栽培管理の徹底を行ってください。排水不良による腐敗等も予想されますので、排水溝の整備も行って下さい。アブラムシ・ダニ等の発生により生育が阻害されますので予防策を徹底してください。また、予防策や、害虫の発生がありましたら、担当者に相談してください。対応策を検討致します。

・かぼちゃ・

アブラムシやコナジラミ等の被害やウドンコ病の発生等があると生育が著しく劣りますので、シルバーテープ等の設置等、予防策を充分行うようにして下さい。

坊ちゃん南瓜は追肥が遅れると樹勢が弱くなり、病害の発生や着果不良となります。有機質肥料は施肥後7~10日後に肥効が始まり、ピークは20日後になります。早め早めの施肥を行って下さい。

・白ごぼう・

収穫前になりますが、芯にアブラムシが付着すると生育不良となり、収穫後の品質低下にもなりますので、予防策を行って下さい。

収穫の際、降雨後の場合は土壌が乾燥してから行ってください。貯蔵中の腐敗の原因となり、クレームにもつながります。

<その他>

ヨトウムシの発生が多くなる時期です。夏~秋に被害を少なくしたい場合は、今、この時期からのフェロモントラップ設置を行うと効果的です。

トラップは、圃場の中には行わず、あぜなどに設置してください。『フェロディン』は農薬登録されていますので、圃場の中に設置すると、農薬1回使用となりますので、ご注意ください。地域一体となって取り組み、ヨトウムシの発生抑制に努めましょう。

春作、秋作の中間の期間で、圃場への作付も一時休止となります。何も作付していない圃場には、緑肥作物を導入し、秋作の準備を行うようにして下さい。また、4~5年以上休ませている圃場でも、緑肥作物を作付けする事によって地力の回復にもなりますので、作付を行って下さい。

収量が落ちてきていると思われる圃場では、センチウ検査と土壌分析をすることをお勧めします。連作障害等もありますが、品質と収量を確保するために、作付けの無い圃場では、検査をするようお願い致します。

土壌の持込は、果樹農産課まで。(開発センターではセンチウ検査が行えません)

連絡先…果樹農産課 (TEL77 - 2216)